



V²⁰¹²aricon

第51回日本SF大会 / The 51st Japan SF Convention

プログレスレポート 第2号

発行：2012年2月20日

Illust：霧賀ユキ

目次

実行委員長から一言	1
オープニング映像情報	3
CAMUI ロケット打ち上げ実験を見に行ってみた	5
オプションツアーのご案内	12
20代以下スタッフ募集	12
星雲賞参考候補作の募集	13
お詫びと訂正	15
実行委員会からのお知らせ	16

◆ 実行委員長からひと言

三森 樹

余寒お見舞い申し上げます。
大会当日まで、残すところ5ヶ月程、引き続き、開催に向けての応援をよろしくお願いします。

さて、大会の準備を始めてから、時折受ける質問があります。

それは「あなたにとって、SFとは何ですか？」というもの。

強いていえば、海洋SFや、架空戦記ものが好きな私ですが、基本的に“SFか否か”ということあまり意識していないので、改めて考えてみると、簡単なようで難しい質問です。

そんな訳で、私にとっての「SF」とはいかなるものか、思いつく限り挙げてみました。

● スペースファンタジー (Space Fantasy)

小学生の頃(1978年)、両親に連れられて観に行った映画が『スターウォーズ』でした。

その影響なのか、SFと聞いて真っ先に思いつく作品は『スターウォーズ』。

そして、「SF」といえば、「宇宙を舞台にしたファンタジーな物語」を指すものと思うようになりました。

● スターフォース (Star Force)

1985年、ハドソンから発売されたファミコンソフトです。当時としては画期的なシューティングゲーム

で、裏技で無敵になって隠しキャラのハーデスを破壊100万点を目指して何度もプレイしたものです。

● すこし・不思議 (Sukoshi Fushigi)

藤子・F・不二雄のSF短編にハマったのは小学5、6年生の頃。

短編以外にも、『21 えもん』や、『T・P ぼん』など、宇宙やタイムトラベルの話がお気に入りでした。

そういえば、“宇宙人に捨てられたペットが主人公に半重力物質を作らせる”話があった気がするのですが、タイトルと、2話以降のストーリーが思い出せません。お心当たりのある方、ご一報ください。

この後数年間、なぜか、「SF」とはご縁がありませんでした。

● Sci-fi

1995年頃、永野のりこ先生の『Sci-Fi もーしょん!』と出会いました。

「Sci-fi (サイファイ)」といえば、これまでの中で一番ガクテキな響き。完全に表紙買いだったのですが、中も良かった。

白衣で理系な主人公と可愛い女性のやりとりで魅せられてしまい、早速、買い求めてきた白衣を羽織り、永野のりこ先生の作品を読み漁る日々が始まりました。

● 侍フィクション (Samurai Fiction)

どんなきっかけで観に行ったのかは記憶にないのですが、お気に入り映画の1つに『SF サムライ・フィクション』(1998年)という作品があります。持ち逃げされた大切な刀を取り戻すべく、家老の息子が走る走る走る。

ただ格好良いとか可愛いではなく、様々な立場の人の生き様を表現した作品でした。

● 将軍ファンタジー (Shogun Fantasy)

将軍といえば、八代将軍吉宗。吉宗といえば、松平健、そして、マツケンサンバ。

大勢の腰元を従え、歌って踊るミラーボールのような男。

まさにファンタスティックな「SF」でした。

勿論、劇場版『仮面ライダーオーズ WONDERFUL 将軍と21のコアメダル』(2011年)も観てきました。

● すごい風呂 (Sugoi Furo)

最近、特に注目しているのが『テルマエ・ロマエ』です。最近単行本の4巻も発売されました。

古代ローマの浴場技師が現代日本の風呂場にタイムスリップするというストーリー。

この作品の影響で、東京は本郷にある鳳明館森川別館のローマ風呂に入りに行き、ちょっとだけ主人公の

■ プロGRESS・レポート 第2号

気分を味わってきました。

今年、映画化もされるようなので、とても楽しみにしています。

以上、私の考える「SF」について、駆け足でお話してみました。

ここまでお読みいただいて、なぜ、「SF大会」とはおおよそ関係のなさそうな項目が入っているのか、誰もが最初に思いつく「Science Fiction」が入っていないのか、不思議に思われた方もいらっしゃると思います。

にもかわらず、あえて、このようなお話をさせていただいたのは、「SF」の“多様性”を感じていただきたかったからです。

私独りがちょっと考えただけでも、これだけの「SF」が出てきました。

同じように、大会関係者全員の考える「SF」を集めていば、無限の可能性が広がるのです。その中からは、予想もしなかった新しい楽しみも発見できるに違いありません。

今回の大会は、あらゆる意味で、「なんでもアリ」なイベントにしたいと考えています。

「今までになかったから」とか、「大会の趣旨に合うかどうか」といった心配はご無用。

企画で、パーティーで、部屋で、コスプレで、あなたならではの「SF」を表現してください。

スタッフ一同、とても楽しみにしています。



◆ オープニング映像情報

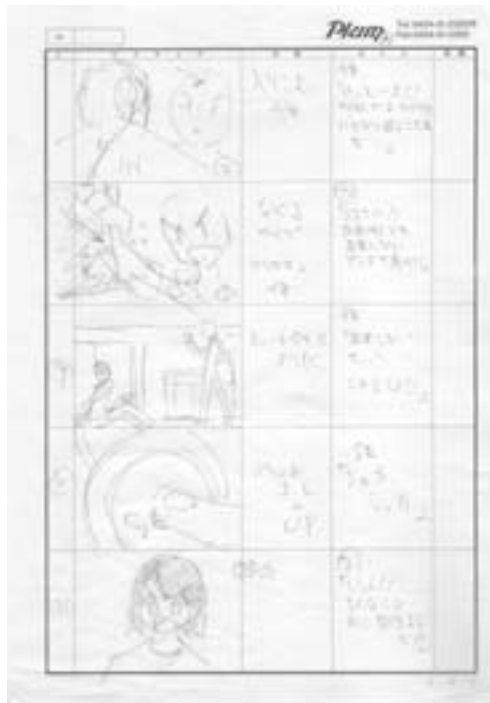
植田 真太郎

前号のこのコーナーを読んで、「今年の大会は大丈夫か？」と不安に思われた方もいらっしゃると思いますが、大丈夫です！ ちゃんと進んでいます!! 今回はご報告することが盛り沢山なので、サクサクといきましょう。

● シナリオ完成！ 絵コンテ進行中!!

難産を極めたシナリオもようやく完成。現在、プロのアニメーション演出家である～さんに絵コンテを切っていただいています。

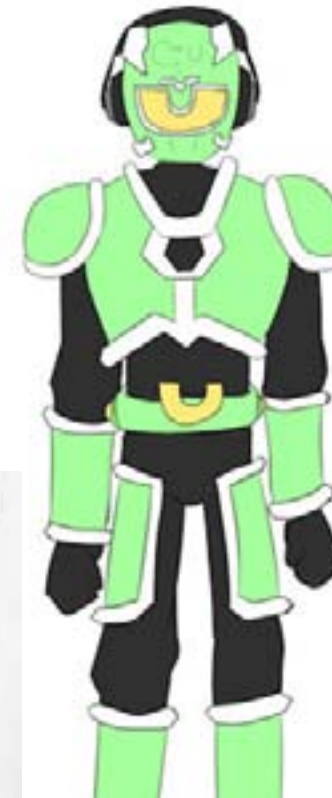
この絵コンテがスゴいのなんの！ 眺めているだけで、もう完成作品を観ているような気になってしまいます。さすが、プロの仕事はひと味違う！ この迫力を最大限再現できるように、撮影の方もガンバってくださいね、三森監督♪ (ぶっちゃけ、実行委員長と同一人物なのですが、このコーナーでは、あえて「監督」と呼ばさせていただきます)



● これがメインキャラクターだ！

動画の主人公「ユーバリアン」のデザインを初公開。監督、スタッフの周囲でコンペティションを実施した結果、～県在住の～さんの作品が採用となりました。～さんはナント～才！ 若い才能が積極的にSF大会を手伝ってくれるのは嬉しい限りです。夕張らしく、メロンをモチーフにしたビジュアルはインパクト絶大！ ローカルヒーローがブームとなっている昨今、SF大会以外での活躍も期待されます。

ちなみに、ユーバリアンの隣に写っているのは敵怪人の一人。こちらは三森監督の友人で、同人作家の～さんの手によるデザインです。



■ プロGRESS・レポート 第2号

● 主演俳優も決定！

このユーバリアンを演じていただく俳優さんも決定！ 三森監督のコスプレ仲間である～さんをお願いすることとなりました。仲間内でも指折りの長身&甘いマスクはテレビのヒーローにも負けてない!?

もちろん、その他の出演者も続々と決定中！ ご期待ください。

● ロケハンを敢行！

先日、三森監督をはじめとする数名のスタッフで、ロケーションハンティング（通称、ロケハン）を行ってきました。身も凍るような寒さに泣かされたものの、その甲斐あって、北海道のヒーローにふさわしい自然溢れるロケーションを多数発見！ 作品への期待が高まります。



● そして、伝説のヒーローが参戦決定！

この作品には、株式会社ガイナック様のご厚意により、「SF 大会のヒーロー」と聞いて、誰もが思い浮かべるあのキャラクターが登場します。SF大会 50 周年だからこそ実現した、スペシャルなサプライズ。すでに造形物も完成し、撮影の時を今か今かと待っています。「SF 者をやってよかった！」と思える瞬間をお見逃しなく！

こんな感じで、エッチラオッチラとやっておりますが、何分、素人の集まりなもので、要領を得ない部分も多々あります。つきましては、質問、助言、提案、お手伝いなど、何でも大歓迎。ぜひ、事務局までお手紙をお送りください。お待ちしております。



◆ CAMUI ロケット打ち上げ実験を見に行ってみた

小松誠 / 文
根本まさよし / 写真

プロGRESSレポートをお読みの皆様、はじめまして。北海道在住スタッフの小松です。

いきなりですが「今、北海道でもっとも宇宙に近い物は？」って考えるとCAMUIロケットだと私は思っています。そもそもロケットの打ち上げを行っている国なんて世界でもわずか10ヶ国程度しかありません。日本も鹿児島県種子島に行けば巨大なロケット打ち上げを見る事の出来る数少ない国なわけですが、ここ北海道からも小型かつ低予算で衛星を打ち上げる事のできるロケットを開発して飛ばそうとしている人達がいるわけです。

カール・エドワード・セーガン博士の原作で、1997年にロバート・ゼメキス監督、ジョディ・フォスター主演で公開された映画『コンタクト』の中では、北海道の知床あたりにヴェガへの移動装置（秘密基地）2号が作られているというトデモな展開もあつたりしましたが、現在、CAMUIロケットが北海道から宇宙を目指している事実を見るに、あながち「北海道から宇宙へ」という舞台選択は間違っ

てなかったのかもしれませんが。今回は2011年12月17日に北海道の大樹町にて行われたCAMUI（カムイ）型ハイブリッドロケットと「なつのロケット団」ことSNS社の小型液体ロケット「ゆきあかり」の打ち上げ実験を見に行ってきましたので、それをレポートしたいと思います。

事の始まりは2011年12月10日、Varicon2012の定例スタッフ会議の後半、議題はオプションツアーの件に移っていました。見学先の候補としてCAMUIロケットを制作している植松電機さんの話をしていた時です。「そういえば来週、CAMUIロケットの打ち上げやるよ」という話がでました。以前からCAMUIロケットの実物を見たいと思っていた私は「チャンス！」と思い、即座に同じ札幌在住スタッフの根本まさよしさんに「一緒に見に行かない？」と誘いをかけました。いきなりの誘いにも関わらず根本さんからも同行の了承を得られて、その場でVariconスタッフ2名の大樹町行きが決定しました。

後から考えると、根本さんは「此奴は唐突に何を言い出すんだ!？」と思ったに違いないですが、よく文句も言わず付いてきてくれたものだと感謝しています。おまけに見学に必要なヘルメットまで買わせて、余計な出費もさせてしまいました（汗）

実は今回のCAMUIロケット打ち上げ実験には12月16日（金）19時に初の夜間打ち上げ実験もあつたのですが、さすがに金曜日は仕事があるので見に行けません。そこで12月17日（土）の朝の打ち上げ実験を見るべく、前日の夜に札幌を出発する旅程を組みました。打ち上げ自体

は日の出時刻よりも後になりますが、見学受付時間は午前5時00分から午前5時40分までという非常に早い時刻です。

ちなみに札幌市から大樹町までは約260Km、車で片道6時間30分ほどかかります。ちょっとした旅行です。

一言で「北海道」と言っても、北海道はとて広いです。都道府県の括りでは一つの行政区分にすぎませんが、面積で言えば四国の4倍、九州の2倍くらい広いです。北海道の面積の3倍で本州と並びます。実に日本の総面積の22.9%は北海道なのです。これだけ広いのに毎年「交通事故死ワースト1」の汚名返上をかけて愛知県と競わされているのは不公平だと思います（笑）

話題が逸れました。ともあれ私と根本さんの二人は見学

受付時刻に余裕をもって着くことが出来るように、札幌を16日の夜22時に出発しました。当日は幸い天気恵まれて交通状況は良く、順調に大樹町までドライブできま



■ プロGRESS・レポート 第2号

した……がっ、途中で2度ほど飛びだしてきたエゾシカをはねそうになりました（怖）

17日午前3時50分、目的地である大樹町多目的航空公園に到着しました。冬至も近いこの日、日の出まではまだ3時間もあり冷え込みは最高潮の時間帯、見学受付開始まで1時間以上も前に着いてしまったのでとりあえず車の中で朝食を食べて待つ事にしました。

午前4時20分頃、どんどん打ち上げ関係者らしき車が到着しては建物に入っていく賑やかになってきました。

そして午前5時になったので見学の受付をしようと建物入り口から中を覗くと、打上管理責任者で北海道宇宙科学技術創成センター（以下、HASTIC）の理事長・伊藤猷一さんを中心に20人ほどが輪になってミーティングが行われている最中でした。他に見学受付に来ている人は見当たらず戸を開けるのも躊躇われたのでミーティングが終わるのを待とうかと引き返そうとした時、背後で戸を開ける音がしました。

「見学かい？」

聞き覚えのある声に振り返ると、戸を開けてくれたのは作家の笹本祐一さんでした。

笹本さんのおかげで中に入れた私たちは女性の打上スタッフから見学申込の書類を受け取りました。書類の1枚目は打ち上げに関する内容と想定される危険事項が書かれており、2枚目が「保安区域内立ち入り免責同意書」という要約すると「危険を承知で勝手に見に来ているのだから、事故に巻き込まれても文句は言わないよ」という誓約書です。その誓約書には住所、氏名（署名）、生年

月日、携帯電話番号、何かあった場合の連絡先電話番号という一通りの個人情報を書いて渡します。するとヘルメット持参の確認をとって、一般見学者には安全ピンで留めるピンク色のリボンが渡されます。このリボンは上着の見える所に付けておきます。ちなみに報道関係者は黄色のリボンを付け、打ち上げスタッフは首からIDカードをぶら下げているので、それらで打ち上げ現場のどのポイントまで入れる人かを区別します。

当日はロケット3機の打ち上げ実験を行い、いずれも高度1000mまで上げて回収となる予定となっていました。

私たちが書類を書いている間に小学館の取材記者（記事載せるのは『小学四年生』だそうです）もやってきて受付をしていました。小学生にCAMUIロケットの知識を植え付ける……いい仕事だなあ（笑）

見学の受付締切時間の午前5時40分になると全員建物



から出て車に乗り込み、打ち上げ場所へ移動します。受付を行っていた大樹町多目的航空公園からロケットの射場までは直線で2Km弱ですが、道なりに遠回りしないと行けない所なので、約4Kmほどを移動します。ロケットが予想外の方向に飛んでいった時、どこに落ちてても被害が出ないようにと、半径1Kmを保安領域として人工的建造物が何も無い野原に射台は設置されていました。

道路から射台へ向かう脇道に折れる所には、大樹町の職員の方がスタッフと見学者以外がそこから先に入らないよう警備していました。後で聞いた話ですが、この打上実験の警備には大樹町から8人も応援を出してくれていたそうで、町が宇宙開発に協力的だという事がよく分かります。

さて無事に見学者用の待機場所に着いたものの時刻はまだ午前5時50分。車の外に出るとマイナス20度を下回

る肌に突き刺さるような寒さです。天気は快晴で風もほとんど無く、ロケットの打ち上げには好条件。しかし日の出まではまだ1時間以上あります。写真担当の根本さんもカメラの準備万端で、しばらくは暇つぶしにあちこちの風景写真を撮っていましたが、やがて他にすることも無くなり、おまけに徹夜でドライブしてきて寝不足なのでとりあえず寝ます（汗）

午前6時45分頃、打ち上げ現場から放送が入ります。

「現在の気温はマイナス18℃。打ち上げ条件のマイナス15℃に満たない為、発射を延

■ プロGRESS・レポート 第2号

期します。次の打ち上げ予定時刻は追って連絡します」

これで日の出直後の午前7時過ぎの打ち上げは無くなりました。天気が良いので安心していましたが、晴れ渡って雲がないと「放射冷却現象」と言って、地上の熱が上空に逃げてしまい地表が極端に冷え込む状態となります。見学者用の場所で警備している大樹町の職員の方としばし雑談をしてましたが、なんでも前日はもっと冷え込んでいたそうで……って、寒いにもほどがあるだろうに、おそるべし大樹町。とにかく太陽が昇って気温がマイナス15℃以上に温まるのを待つしかないので、また寝ます(笑)

午前7時40分、再び放送が入ります。気温がマイナス13℃になったから1回目の打ち上げ準備に入るという事で、最初の発射予定時刻は午前8時30分と決まりました。まだ50分ありますので、とりあえず寝ます(しつこい)

午前8時20分、いよいよ1機目の打ち上げ10分前になりましたので見学場所に移動します。気温はマイナス6度。少ないながらも報道カメラマンがかなり大きな望遠レンズを付けたカメラを向けて待ち構えています。

報道陣と一般見学者は打ち上げ地点から550m



手前までしか近寄れません。かなり倍率の高い双眼鏡で射台の様子を覗いていましたが、遠すぎて作業している人たちが何をやっているのかよく分かりません。でも、さきほど雑談していた大樹町の職員の方に聞いたら、ロケットが小さいので近すぎると逆に打ち上げ範囲を目で追い切れないから、これくらい離れていた方が発射から落下まで全体的によく見る事ができるという話でした。

この日打ち上げるロケットは3機とも若干大きさは異なりますが概ね高さ4m前後、直径16cmほど、重さは30～40Kgでした。

見学者の所にはHASTICの伊藤さんが来てくれて、ハンディ無線機で入ってくる打ち上げ30秒前からのカウントダウンの声を拡声器で見学者にも聴かせるよう配慮してくれました。打ち上げのタイミングが近づくとつれカメラマン達にも緊張が高まります。根本

さんは三脚もたてずに一眼レフのカメラを構えています。

午前8時30分、最初のカウントダウンが終わり1機目のロケット発射。

ジェット機ほどの轟音でも

なく、花火のような細かい音でもなく、「ゴオーー」と「プシューー」の間くらいの音、あえて擬音にすると「バシューー」という感じの音を立てて昇っていきます。小



型とはいえ子供一人くらいの重量があるロケットを1000mまで打ち上げるので、時間にして十数秒は上がり続ける機体を見る事ができました。

燃料が尽きるとロケットは上昇を止め、自然落下に移りパラシュートが開きました。この日は風がほとんど無い好条件だった為、ほぼまっすぐロケットは打ち上がり、パラシュート開花後もあまり流される事なく打ち上げ地点から100mくらいの所へ落ちてきました。

私は種子島にH2Aロケットの打ち上げも見に行きましたが、あの巨大なロケット打ち上げとはまた違う想い、「あの小さなロケットがいずれ北海道から宇宙まで飛び出すのか」という感動を味わっていました。もちろん重力圏を飛び出すにはもっとたくさんの燃料を積みねばならないので、この日の実験で使ったロケットよりも大きくはなるの

■ プロGRESS・レポート 第2号

でしょうけど、それでも町の工場レベルの規模で宇宙に飛び出すロケットが作れるようになる時代が「もう、すぐそこまで来ている」という現実に嬉しくなりました。

さて、1機目の打ち上げ実験が終わりましたが、この後、航空機が上空を通過する時間帯に突入する為、午前8時50分から午前10時40分までは打ち上げができません。次の打ち上げ可能時刻まで2時間ほど暇になるので、私と根本さんは朝食の為、大樹町の市街地へ出かけました。出かけてみて分かったのですが、この射場から市街地までは11Kmほど離れていました。さすがに実験中の航空機などが民家に墜落しても困るので、航空公園は市街地からかなり離れた場所に作られていたのですね。

それで市街地に着きはしましたが、まだ午前9時で食堂も開いてませんからコンビニで食料を買い込みました。それでもまだ時間が余っているので、さっき大樹町職員の方に勧められた道の駅「コスモール大樹」を見に行く事にしました。場所は町の中心を通る国道236号線沿いにあるのですぐに見つかります。



道の駅の横(道路側)の壁面には星へ向かうスペースシャトルの絵が掲げられています。そんなスペースシャトル計画も2011年7月8日に最後の打ち上げを行い、その歴史に幕を閉じてしまいました。残念です。

建物の中に入ってみると北海道の田舎町とは思えない宇宙関連のお土産グッズや宇宙食、JAXAの広報誌などが並んでいます。近年の話題では「はやぶさ」もしっかり



アピールされており、世界一仕事を選ばない猫はやっばりここでも仕事をしてました(笑)

お土産コーナーはこんな感じ。

大樹町なのになぜか「夕張メロンキャラメル」も売ってます(笑)



お土産コーナーで不自然な笑いを堪えつつ写真を撮りまくる私たちに、売店のお姉さんも不審者を見る目が変わり



■ プロGRESS・レポート 第2号

ます (汗)

手ぶらで帰るのも申し訳ないので、大樹町の道の駅限定のカマンベールチーズ『大樹物語』(雪印乳業・500円)と大樹町の特産品であるツブ貝の加工品「辛味噌つぶ」(525円)を買って戻ることになりました。

ロケット発射の見学地に戻ると他の報道陣や見学者達は意外とそのま射場から動かず、車の中でずっと待機しているようでした。



私たちがコンビニで買ってきた本日二度目の朝食を取った後は他にやる事もないので、次の発射までお約束通り寝ます (汗)

午前10時すぎ、2機目の打ち上げ予定時刻が午前10時45分とアナウンスが流れてきました。

打ち上げ10分ほど前になるまで車の中で待機し、発射時刻が近づくと見学位置に移動します。なにしろ外の温

度はだいぶ暖まってきたとはいえ依然として氷点下のマイナス3度。できるだけ体温を逃がさないように直前までは



車の中に居ます。

そして打ち上げ10分前、再び車から降りて見学位置でカウントダウンを待ちます。今回もまた30秒前からのカウントダウンと共に発射。

このロケットが今回の実験では一番大きいタイプで、一番下の尾翼の前方から空気(酸素)を取り込む隙間が空いている変わった形をしています。その為に今回、まっすぐ飛ぶかどうか一番心配だった機体でもあったのです



が、ほぼまっすぐ上昇していきました。しかし大きいだけあって、若干さきほどより到達点は低かったようでした。こ

の機体もまた落下に移るとパラシュートが開いて降下してきますが、先程と同じく風に大きく流されることなく割と近くに着地しました。

前日の夜間打ち上げを含めてCAMUIロケットの実験はこれで終了。

次はいよいよ笹本祐一さん、あさりよしとお(浅利義遠)さんの参加するSNS社の打ち上げ実験ですが、準備があるのでまた1時間ちょっと待機が続きます。打ち上げまで暇なので、やっぱり寝ます (もうええわ)

そしていよいよ最後の打ち上げ時刻は正午ちょうどの12時00分となりました。

昼になって気温的には一番高い時間帯のはずですが、それでも車の外は氷点下で真冬日な大樹町。寒いです。

また打ち上げ10分前に見学位置に移動し、ついに最後のカウントダウン。そして発射。

これも風の無いのも幸いして見事にまっすぐ上がっていきました。この日の3機のロケットのう

■ プロGRESS・レポート 第2号

ち「ゆきあかり」が一番高くまで上がりました。そして同じくパラシュート開花後、ほぼ打ち上げ地点に近い所へ着地しました。3機の打ち上げ成功を見届けた見学者達からは拍手が送られました。

すべての打ち上げ実験が終了し機体の回収が済むと、発射地点から170mの位置に設置された本部前で記者説明会が催されます。遠くから見ていた報道陣も見学者もみんな本部前へ移動します。

そこでは回収してきたロケットの機体を間近で見ることができ、開発に関わる機密事項がわかるような写真撮影(機体内部の接写)だけは遠慮するように言われました。それ以外なら写真は撮り放題です。

13時頃から記者説明会が開始されました。メインの実験内容や技術的な解説はHASTICの伊藤さんが行い、そして植松電機の植松努さん、SNS社からは牧



野一憲さんと笹本さんとお話をして会話は終了しました。

会見の後、マスコミ用の集合写真の撮影や



ニコニコ動画で放送している『ホリエモンの満漢全席』(第24回放送)の取材が行われていました。ニコニコ動画本編で放送はされなかったのですが、塀の中にいる堀江貴文さんに向けてSNS社の面々からのメッセージも収録していました。堀江さんも本当なら打ち上げに立ち会っていたはずなのに残念でした。早く出てこられると良いですね。



最後に私たちSF大会のスタッフも笹本さんにVaricon2012の話を少しさせていただいております。お暇することになりました。

実験を見終わって色々満足した私たちは、昼ご飯を

食べに行くべく大樹町の市街に戻ります。

目的は大樹町にある食堂『味の龍月』で出している名物「牛トロ井」で

す。さっき雑誌談していた大樹町の職員の方にも勧められましたが、夏にはよくツーリングをしているバイク乗りが食

べに来る事でも有名なB級グルメです。お店の場所は

さっきお土産を買いに来た「コスモール大樹」の道路を挟んだ斜め向かいにあるので、道の駅を目印にすれば初めて来る人でも迷わず見つけられると思います。



お店には13時55分に着き



■ プロGRESS・レポート 第2号

ました。日曜とはいえ既にこの時間だと空いています。昼時はいつも混んでいるそうなので、ロケットの記者説明会のおかげで昼食時間が遅くなったのはラッキーでした。

店の壁にも「十勝新名物 牛とろ井」のポスターが。注文して5分ほどで牛トロ井が運ばれてきました。白いご飯の上にもみのり、白髪ネギ、かわれ大根、青じそ、そして見た目はネギトロなのですが赤身はマグロではなく挽肉状態の生の牛肉。さらに牛トロの上には半熟の目玉焼き。その黄身を崩しつつワサビ醤油をかけて口にほおばります。熱々のご飯と目玉焼きの熱に牛肉の脂が



溶けて口の中いっぱい
にふんわり
広がります。
「……う～ん
まい！」
ネギトロのよ
うな生臭さ
は無く、そ
れでいて牛

肉の旨みと卵の黄身のまろやかさとワサビ醤油のピリ辛がマッチして濃厚な味わい。実に美味です。正直な事を言いますと私、ロケットの打ち上げ実験を見たかった気持ちと同じくらいこの牛トロ井を食べる事を楽しみにしていたので、この一杯の井の為でも大樹町まで来た甲斐がありました(笑)

また CAMUI ロケットの打ち上げを見に来た時には、牛トロ井を食べに来ようと思います。

そして私たちは14時20分に大樹町を後にし、20時頃に札幌へ帰り着きました。



【参考】

NPO 法人北海道宇宙科学技術創成センター (HASTIC)

<http://www.hastic.jp/>

株式会社 植松電機 (研究・開発に関するサイト)

<http://uematsudenki.com/UE1/HOME.html>

SNS 株式会社

<http://www.snskk.com/>

● 現在、mixi 内においてオプションツアーの希望調査を行っております。

Varicon2012 では、今回レポートで取り上げた CAMUI ロケット制作に携わる植松電機さんの体験学習 (モデルロケット制作) をオプションツアーとして実施いたします。(定員 30 名)

現時点で決定しているオプションツアーは植松電機さんだけですが、参加者の希望が多ければ他のツアーも検討いたしますので、mixi にアカウントをお持ちの方はぜひアンケートにご協力をお願い致します。

Varicon2012 のコミュニティ URL

http://mixi.jp/view_community.pl?id=5803439

■ プロGRESS・レポート 第2号

◆ オプショナルツアーのご案内

植松電機体験学習+ひみつのロケット開発施設をこっそり覗いてみようツアー

噂の植松電機を思い切り肌で感じろ！

体験学習と秘密施設見学そしてSF大会会場までの送迎つきのオプショナルツアーです。お昼（弁当）もつきます。

道外からご参加の場合、前泊が必須となります。（朝の7時に札幌駅前に到着できればよいだけですが……）

前泊で楽しみすぎて徹夜は厳禁ですよ。ツアーが楽しめなくなりますから。

●日付：7月7日（土）

●時間：07：00 時札幌駅集合→チャーターバス出発

09：00 植松電機体験学習（その後、ひみつのロケット開発施設見学）

15：00 ツアー終了～SF大会会場直行

●参加費用：一人5000円（体験学習+昼食+チャーターバス代）

●定員：30名（定員に達し次第募集終了）

●内容：植松電機の体験学習

<http://uematsudenki.com/UE1/ken.html>

（昼の部まで一通り体験します）

と、ひみつのロケット開発施設見学

（「なつのロケット団」の笹本祐一さんから見学許可を頂いてますが、笹本さんご本人は同行いたしません）

●参加受付：受付用メールアドレス

opt-tour1@varicon2012.jp

へメールの表題を「植松電機ツアー申込み」として頂き、本文に登録番号・バッジネーム・連絡先電話番号を明記の上、お申し込み願います。追って実行委員会からご連絡致します。

ご不明な点などがありました場合も同じく

opt-tour1@varicon2012.jp

までご連絡下さい。

◆ 20代以下スタッフ募集

当日、フルタイムで手伝っていただける20代以下のスタッフを募集します。

●大会当日に29歳以下（誕生日が1982（昭和57）年7月8日以降）であること。

●設営（7月7日午前10時～）と撤収の作業（7月8日午後5時まで）、および大会運営中の行動は実行委員会の指示に全て従う事。

●参加申込みは、本名・バッジネーム・住所・電話番号・大会当日時点の年齢を明記の上実行委員会のメールアドレス（ページ一番下に書かれているinfo@です）へ【20代以下スタッフ限定料金参加希望】という表題でメールを送信して下さい。折返し実行委員会から連絡致します。年齢を証明可能な書類（学生証・運転免許・保険証など）を後ほど確認します。

●既に20代以下区分に当たる通常料金で参加申込みをされている方がスタッフ限定料金への移行を希望される場合、差額につきましては大会当日に返金致します。

●なお、この募集は規定の人数に達次第に終了となります。終了につきましては、別途アナウンスいたします。

■ プロGRESS・レポート 第2号

◆ 星雲賞参考候補作の募集

● 初めに

SF大会に参加されたことのある方は既にご存じかと思いますが、毎年SF大会参加者の投票により、優秀なSF作品及びSF活動に対して『星雲賞』が日本SFファングループ連合会議（以下、連合会議と略します）により授与されています。

星雲賞の名前だけであれば雑誌やテレビ、ネットで出てくることもありますので名前だけ聞いたことがあるという方も多いとは思いますが、この賞は毎年SF大会に参加されている方々により決められているのです。

● 候補作はどうやって決められているのか

星雲賞は毎年SF大会当日が近くなる頃に参加者全員に対して【参考候補作一覧】が書かれた投票用紙が届き、連合会議に返送する形で投票が行われ、連合会議が集計を行い、その結果をSF大会当日に発表する形を取っています。

これは連合会議の【年次日本SF大会におけるSF賞選定に関する規定】（以下、星雲賞規定と略します）により定められており、この規定に基づいて星雲賞の授与が行われています。

その星雲賞規定の第五条により事前に候補作が連合会議所属グループにより選定されている訳です。

● Varicon 参加者が星雲賞候補作を決める？

星雲賞規定第5条では「本投票に先立ち、その参考に資するため、一般及び日本SFファングループ連合会議加入グループによる候補作選定を行い、投票権所有者に通知するものとする」と定められています。

今回、Varicon2012 実行委員会も連合会議加入団体の一つとして取り扱われ、星雲賞参考候補作を連合会議に出す権利を持っています。

そこで実行委員会では、参加者の皆さんから候補作を募集してみよう！ と決めました。

● 星雲賞の条件ってなに？

星雲賞規定第4条では次の通りになっています。

前年一月一日から十二月三十一日までに発表された作品、及び顕著な活動を対象とする。ただし雑誌はその月号に準じ、一月号から十二月号までとする。また雑誌掲載、または公開時に参考候補作にあがらなかった場合限り、単行本またはメディア媒体収録時点でも対象となる。なお、あくまでもプロフェッショナルな活動を対象とする。

A. 日本長編部門、海外長編部門、日本短編部門、海外短編部門

期間中に初めて発表・翻訳されたSF小説を対象とする。ただし、雑誌等に発表された作品はその終了時に、

それ以外の作品は単行本収録時をもって対象とする。（連続性のある作品群についてはその終了時においても一括して賞の対象となる。）

B. メディア部門

期間中に、映画、演劇、その他視聴覚メディアを通じて発表された作品を対象とする。（連続性を持つ作品については前項に準ずる。）

C. コミック部門

期間中に初めて発表されたコミック作品を対象とする。（連続性を持つ作品については前項に準ずる。）

D. アート部門

期間中におけるアート作家の顕著な活動を対象とする。

E. ノンフィクション部門

期間中に初めて発表・翻訳されたSFに関するノンフィクション作品（研究、評論などをはじめとする出版物）を対象とする。それ以外はA項に準ずる。

F. 自由部門

期間中に発生したA～E項に含まれないSFに関する事象（物、事柄、及び科学技術上の成果等）を対象とする。それ以外はA項に準ずる。

ちょっと難しいですね。では簡単に箇条書きにします。

1. 去年一年間の間に発表された作品・活動
2. ただし、連載などでまだ続いているものはダメ。去年

■ プロGRESS・レポート 第2号

の内に終わっている（連載終了）ものだけ。

たったこれだけです。

ですので、単品で出された小説や評論は去年一年間のうちに発売されたものならOKで、連載ものであれば、去年の内に作品が終わっていればOK。

続編や第二期とかの形で続いてしまっているものはダメという訳です。

例：メディア部門

【星を追う子ども】 → ○ 去年公開された単品の映画なので候補対象になりえます。

【バカとテストと召喚獣】 → × 今年第二期が作られている作品なので候補対象にはなりません。

これはあくまでも例ですよ。今、ちょっと思いついた作品を書いただけですからね。あまり細かいことを気にするとオジサン泣いちゃいます。美波様に罵倒されたいかなんてこれっぽっちも思ってません。

部門は【日本長編部門】／【海外長編部門】／【日本短編部門】／【海外短編部門】／【メディア部門】／【コミック部門】／【アート部門】／【ノンフィクション部門】／【自由部門】の9つです。

詳しくは再度星雲賞規定を確認して下さい。

<http://www.sf-fan.gr.jp/regaward.html>

過去の受賞作品も掲載されていますので、参考になると思います。

<http://www.sf-fan.gr.jp/awards/list.html>

● で、どこまでがSFなのさ？

むかしむかし【動物のお医者さん】という漫画が星雲賞を”受賞しかけた”ことがありました。残念ながら受賞はしませんでした。

この漫画を知っている方ならどこがどうしてSFなのかと疑問を持たれるかもしれませんが、当時の連合会議議長は、その間に「菱沼さんがSF」という言葉を残しています(分かる人には分かると思います)。

正確なSFの定義は決まっています。

元々は『サイエンス・フィクション』の略でしたが、今となつては『サイ・ファイ』『すこし不思議』などもみんな言いたい放題でSFの定義がされています。でも、皆さん頭の中にはもやもやとした『SF』がありますよね。

それがSFでいいんです！

● それでは候補作の応募方法です

下の注意点を確認して、2月29日までに

nomine@varicon2012.jp

までメールにて送って下さい。締切がタイトです。

受付しました候補作につきましては担当が集計後、公表いたします。

● 注意点

・メールのタイトルは「ノミネート」としてください。
→メールアドレスクリックでタイトルに「ノミネート」が入ります。

念のため文字化けしていたら訂正をお願いします。

・本文には、部門名、作品名、作者、出版社（メディアの場合は放送配給元）を忘れずにご記入ください。なお「自由部門」にはノミネートの理由もお願いします。

・全部の部門のノミネートを上げる必要はありません。1部門だけの応募で大丈夫です。また一つの部門の複数のノミネートを上げて良いです。

・逐次刊行物に掲載された作品を候補作としてあげる場合には、その月号数に注意してください。年内に発売でも11月末や12月始めに発売される「1月号」は本年の対象ではありません。

・逆に12月中に封切りの「お正月映画」は、対象となります。

・単行本や文庫本等については、奥付の初版発行日付です。年内に発売しても奥付の日付が1月の場合は本年の対象ではありません。

■ プロGRESS・レポート 第2号

● メールテンプレート

こちらを使用して下さい。

名前：登録番号（分かる場合）かバッジネームをお願いします。

【日本長編】

作品：
作者：

【日本短編】

作品：
作者：

【海外長編】

作品：
作者：
訳者：

【海外短編】

作品：
作者：
訳者：

【コミック】

作品：
作者：

【メディア】

作品：
制作 / 監督：

【ノンフィクション】

作品：
作者：

【アート】

作者：

【自由】

作品：
作者：
理由：

◆ お詫びと訂正

○ 格安ツアーについて

1月発表予定としていた格安ツアーですが、旅行会社に提示された団体割引よりも、個人で取る早割の方が安い結果となるようですので、大変お手数ですが、北海道までの交通につきましては、各自で確保いただけますようお願いいたします。

○ 直通バスについて

TOKON10の時に配布したチラシ（鶯色の紙）にて、「空港から夕張までの路線バスがある」ように誤解する表現がございました。

正しくは、手配を予定しているチャーターバスでの所要時間です。

スキーシーズンにはバスの設定がありますが、大会当日にはバスはありません。

訂正させていただきます。紛らわしい表現で申し訳ございません。

■ プロGRESS・レポート 第2号

◆ 実行委員会からのお知らせ

● 障害をお持ちの方へ

障害をお持ちで、介添えの方を必要とされる方は、介添えの方の参加費を半額にさせていただきます。その際、介添えの方とは同室になります。

● 個別のお食事を希望される方へ

アレルギー等をお持ちの方で、別食をご希望される方は、実行委員会までお申し出ください。また、小さいお子様がいらっしゃるなどの理由で別個のお食事を希望される方も実行委員会までご連絡ください。

● 部屋割りについて

Varicon2012の部屋割りは、男女別の相部屋(8人部屋)です。少人数での部屋占有はご遠慮ください。企画などで部屋が必要な場合は実行委員会にご相談ください。

◎部屋にバス、トイレはついていません。

小さなお子様がいらっしゃる等で相部屋が困難な方は実行委員会にご相談ください。

● グループ等で同室を希望される方へ

グループ等で同室を希望される方は、下記項目を実行委員会までお知らせください。

- (1) 代表の方の氏名、参加番号
- (2) グループ全員の氏名、参加番号

なお、Varicon2012の宿泊部屋は8人部屋です。大きく異なる人数構成でのグループの部屋占有はご遠慮ください。

また、部屋割りは男女別の相部屋ですので、グループでの占有でない、少人数での同室希望の方は基本的に同性の方のみとさせていただきます。

質問等ございましたら、実行委員会までご連絡ください。

info@varicon2012.jp

第51回日本SF大会 Varicon2012 プロGRESSレポート 第2号

発行日：2012年2月20日

発行者：第51回日本SF大会 Varicon2012 実行委員会

住所：〒173-0033 東京都板橋区大山西町16-7 1階

FAX：03-6413-6422

URL：<http://www.varicon2012.jp/>

Mail：info@varicon2012.jp